

ブータンに幸せのルーツを求めて

山極 壽一（京都大学）

昨年の11月に、ブータンを訪問する機会に恵まれた。京都大学の高等研究院の松沢哲郎特別教授（日本モンキーセンター所長）に計画していただき、西谷祐子教授（法学部）、坂本龍太准教授（東南アジア地域研究研究所）他、医学研究科の大学院生たちに同行させてもらった。なぜ、ブータンか。それは新年早々に大阪で予定されている講演で、「ゴリラから学ぶ幸せな生き方」という話をするようになっていたからだ。ゴリラにとって幸せなことはわかるような気がする。しかし、人間にとっての幸せとは何だろう。それを国家目標に掲げているブータンで少しでも理解に近づこうと思ったのだ。

今回の訪問は、一昨年にソナム・デチャン・ワンチュク王女が来日された際、京都大学でシンポジウムを開き、歓迎の宴を催した返礼だそうだ。王女の母であるドルジ・ワンモ第4代王妃、ジグメ・シンゲ・ワンチュク第4代国王にもお会いできることになっている。第4代国王は、1972年にGNH（Gross

National Happiness：国民総幸福量）を国の目標に掲げたことで有名だ。以来、ブータンはGNP（Gross National Product：国民総生産量）ではなく幸福を追求する国として歩んできた。国民の多くが幸福からは程遠いと答える日本人に比べて、ブータンでは国民のほとんどが幸福だと感じている。それはいったいどこからくるのだろうか。

飛行機はタイのバンコクを経由して、パロ飛行場に降り立った。山に囲まれた谷間で滑走路は一本しかなく、とても質素な空港だ。空港近くの山の上にブータン国立の法学校が建設中で、ここに立ち寄って学生たちから説明を受けた。建物は鉄筋コンクリートで壮大な造りだが、エネルギーとコストを節約するために地面と建物の間に空間を作って風を通し、壁には断熱材を入れて冬の寒さに備えている。冷暖房は使わない。翌日は首都のティンプーからヒマラヤ山脈が一望できる標高3000メートルを超えるドチュラ峠を経由して、一気に標高1000メートルのプナカまで



▲建設中の法学校。



▲ヒマラヤ山塊をのぞむ。



▲訪問団とブータンの友人たち。

下り、ワンモ王妃が建立したチミ・ラカン寺院を見学した。ここは子宝の寺として有名で、男女の像が実際にまぐわっている。道中の田園風景は平和そのもので、家々はブータン風の飾り窓で統一してあり、男たちはゴという日本のどてらのような上着を着てスカートをはき、黒い長靴下をつけて歩いている。学生たちの制服も柄は違うが作りは一緒だ。どこでも、のんびりとした人垣があり、ほがらかな表情で語りあう姿が印象的だった。



▲第4代ワンチュク国王とともに。

さて、松沢さん、坂本さん、私の3人は第4代国王から贈られた特別仕立てのゴを身にまとい、大変緊張して国王の宮殿へと招き入れられたのだが、なんと入り口で迎えてくれたのは国王自身だった。とても気さくな態度で私たちと向かい合って座った国王は、興に乗って1時間以上も話をしてくれた。印象に残っているのは、GNHを考案した際に最初はHappinessではなくContent（満足）を指標にしようと思ったという話だ。でも、満足は個人的なものなので国の指標にはならないと思って幸福にした。幸福の基準は国家ではなく、個人や家庭の基準である。衣食住が保証され、それが精神的な豊かさに昇華することが重要だという。ちなみに、国王は63歳になるがこれまで人生で一度もストレスを感じたことがないらしい。なぜかと聞いたら、Mindfulnessが重要だという答えが返ってきた。

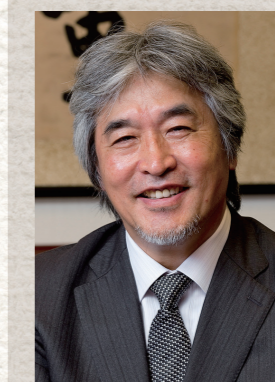
それは何となくわかる気がする。今回、首相官邸

でロテ・ツェリン首相にもお会いしたが、外科医でとても実直な政治を目指している感じがした。第4代国王は自ら国王の権限を縮小して立憲民主制に移行し、国民議会に国王不信任決議権を与えた。国民の信頼は厚く、仏教国ブータンは国王、首相、大僧正の3人のトップからなる国づくりをしている。寺院には若い僧たちが修行に励んでいて、厳しい戒律を守る僧たちの存在が高い倫理を人々に示している。それぞれ分野の異なるトップの人格が人々の精神生活に大きな影響を与えている。

そうか、ゴリラはリーダーのシルバーバックがその役割を果たしているんだな、と私は気がついた。おいしいものをたらふく食べ、みんなと仲良く過ごし、安全に眠る。それがゴリラの幸福であり、シルバーバックはその番人である。そう考えると、にわかにはワンチュク国王がシルバーバックのように見えてきた。



▲菩提樹の木の树下で。



山極 壽一

やまぎわ じゅいち

京都大学・第26代総長。公益財団法人日本モンキーセンター・博物館長。霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院の分担者。野生ゴリラの生態を通じて、人間社会の起源について研究している。